

事業名		令和7年度 第1回市川市文化芸術事業検討懇話会	
日時	令和7年8月25日(金)13時～14時30分	出席者	【委員】小笠原委員、朽木委員、能村委員、 小坂委員、鈴木委員 【事務局】文化国際部 文化芸術課
場所	第1庁舎 会議室		
種別	☐ 交渉 ☐ 連絡 ☐ 提案 ☒ その他		
【内 容】 1. 文化振興ビジョン改定について 【議 事】 1. 第2次(次期)市川市文化振興ビジョン策定スケジュール (事務局から説明) 資料1参照 2. 文化振興ビジョンの改定について (事務局から説明) 〈第1次(現行)ビジョンについて〉資料2-1参照 〈リーディングプログラム「街かどミュージアム都市づくり」の展開〉資料2-2参照 〈基本方針の振り返りと評価〉資料4, 5, 6参照 (意見交換) ○能村委員 22年で時代が大きく変化し、少子高齢化で価値観も変化している。組織を嫌って SNS などでもやりとりをするようになり、素早くいろんなことができるという利点もあるが、文化は人と人との繋がりが大切なので、そこに新たな支障が生じているように感じる。文化施設の展開など市は努力しているが、若い人の心をつかめるかどうかや急速な高齢化への対応が求められる。 ○小坂委員 近年、多くの方が前以上に文化会館に来られるようになった。 高齢化は仕方ないこと。高齢者も多く来るが、近い所で楽しめることを意識しながら努力をしている。都内の講演と同内容のものが安く市川で観られる。 市川市文化振興財団は努力している。市も財団をもっと利用して、話し合いを密にしていくとさらに外からも注目されていくのではないかと思います。			

○鈴木委員

幅広く取り組んでいることは市民としても感じる。

文化会館改修後は外からも注目されるようになり、街がよくなってきているという感覚はある。

ただ、東京近郊の他自治体である横浜市、川崎市などに比べたら、PRが上手くなく、市川市の魅力が伝わっていない。

市川市には文化人が昔から住んでいるが、個性的な街づくりが十分に届いていない点が残念。

川崎市はミュージアム川崎が拠点となって、フェスタサマーミュージアムを行っている。そういうフェスティバル的な華やかなものを行っているとし、内外から人が集まり注目されると思う。市のイメージが上がる。市川市は地道にやっていることが多く魅力が伝わりにくい。

永井荷風文学賞は、市川市らしく素晴らしいと思う。もう少しそういったことをアピールできるとよい。

外国人が増加しているが、国ごとにコミュニティができている。市民アンケート結果を見ると、市川市民と外国人のふれあいが少ないことがわかる。芸術文化を通じて、多文化共生社会の推進をしていくことが大事。

○小笠原委員

元千葉県の職員で文化財の専門職員、博物館の担当などもしていた。

いろんな地域を見てきて、市川は文化芸術に力を入れていると思う。

東京八王子でも委員をしているが、どこの自治体も個性や差別性を見出すのに苦労している。

市川は環境も整っているの、もう一歩踏み出せばいろいろできるのではないかなと思う。

若い人をどう取り込んでいくかが課題となる。

日頃、若い人と付き合っているが、現場に連れていき、本物に触れられるようにしている。

頭や画面の中だけで解決するのではなく、いかに本物に触れられる機会を作るかが文化振興を推進する役所としての目的。そういう環境を整えていく必要がある。

市川は人材、環境、設備も素晴らしい。それを活用しない手はない。

博物館もこれだけあり、本物に触れられる機会が整っているし、子育てにもいい恵まれた環境。

P12の回遊ルートの整備について、ターゲットの問題だが、案内板は若い人がターゲットであれば、紙媒体でなく、デジタル媒体の方がよい。スマホに慣れていない年代の人には紙媒体の方が馴染む。

取捨選択は大事だが、いきなりどちらかをなくすのは時期尚早。お金はかかってしまうが、二刀流で両方に配慮したものを用意する必要がある。

○朽木委員

街回遊展は非常に成果を上げた画期的なもの。事業自体は終了しても、「回遊展 in 八幡」、行徳の「寺のまち回遊展」とまいた種が伸びていて、育っていく非常によい試みだった。

資料4の振り返りをもとに次期ビジョンを作っていくとなかなか新しい案が出にくいと思う。

新しい案の一つの柱が美術館構想だと思うが、美術館というハード面だけでなく、ソフト面での文化振興の新しい施策を期待したい。

街回遊展は当時予算100万円くらいで2万人くらいの参加者を出していた。ハード面だけでなく、ソフト面での工夫を出してもらいたいと思う。振り返りだけでなく、新しい意見、次への期待をしたい。

○能村委員

厳しいことを言うと進んでいない部分も随分ある。市川市芸術文化団体協議会は、高齢化で会員が減っている。文化祭・芸術祭に参加している団体のメンバーのほとんどが昔から変わっていない。新しい団体が文化祭・芸術祭に加わったという話を聞かない。他市に比べて、会場費の減免や、負担金を手厚くしてもらっていることは有り難いが、文化祭・芸術祭に参加できない団体も多数あり、洗い出しをしようという投げかけをしているが、先に進まない。

文化会館がリニューアルした時に、市川市芸術文化団体協議会と一緒に他の団体を巻き込んだよいイベント(ICHIKAWA カルチャー&アーツフェア)を行い、期待がもてたが、一回だけで終わってしまった。続けていけばもっと違う展開があったのかもしれない。文化祭・芸術祭はおざなりでやっている感じがする。

いろんな団体があるので入れ替えのようなことをした方がよいのではないか。

東山魁夷記念館は著作権の問題等があり、先に進まない。せっかくあれだけの施設をつくって、市民はがっかりしている。

中山先生、池田蘭径先生の寄附もどう活用していくか考えていかなければならない。

3. 第2次(次期)市川市文化振興ビジョン策定に関わる方針

(事務局から説明)

資料3参照

(意見交換)

○鈴木委員

対象とする文化芸術の範囲について、文化芸術基本法に示されているものに絞っていくという話があったが、最近、観光と文化を結び付けて出していく自治体が多いように思うが、観光的な要素は外していくということなのか。

○事務局

対象範囲は列挙してはいるが、文化芸術基本法の中で観光や街づくりなどと連携するようになっているので、観光についてもビジョンには含めていきたい。

○鈴木委員

観光についても外すということではないと承知した。

○小坂委員

少し前に市に観光部が設置され観光に力を入れていたが、今はどうなのか。

○能村委員

いいものがたくさんあるので、シティセールスの発信力が大事。東山魁夷などの全国レベルの知名度のものを資源としていくとよい。

○小坂委員

市役所内で市民がいろんなところで休憩している。

ニコットは、涼しくおしゃれなところで朝から親子連れが集まっている。

市役所でゆったり過ごせるのは魅力的。市のいろんな所を開放していることを広報でもっとアピールすることが必要。アピールがうまくいくと人が動き、観光になる。

資料 8 市川の文化施設ではそれぞれいろんなことをやっている。

木内ギャラリーは行くと気持ちよいが、目玉が何なのかわかりにくい。郭沫若記念館も。アピールがうまくいくといい。

○小笠原委員

観光振興ビジョンを策定し、集客をしていくのがシティセールスで観光振興課の役割。

文化振興ビジョンに観光のことを入れるとすれば、集客をすることを中心とするのではなく、どう有効な文化資源を観光に使えるかの素材の提供についてである。こういう取り組みをしているから集客やシティセールスに使えるのではないかと観光振興課へ提案する役割がある。

集客やシティセールスは観光部署に任せて、取り組み内容の素材自身のアピールを広報と協力して行う。

文化芸術資源の発掘・整理をしなくてはならない。

文化財をリストアップしていき、指定・未指定にかかわらずどういった活用ができるか考える。資源のリストアップは重要な仕事。それを観光振興課へ提供し、どう活用できるか考え、お互いに協力することが重要だと思う。

○朽木委員

千葉県が文化財保存活用大綱を令和 5 年に策定して、昨今は各市町村でも保存活用地域計画を作り始めている。8 市が文化庁の認定まで終わっている。市川市はどの段階にあるか存知上げないが、地域保存活用計画を現在作っているのであれば、その計画や千葉県の保存活用大綱と連動を視野に入れていくとよい。ビジョン自体は長期計画なので、すでに見えている大きな枠組みとどう連動していくのかと考えていく。

文化財は既存の文化財だけではなく、未指定文化財も含めた活用に全体がシフトしてきているので、その辺も視野に入れられるとよいと思った。

○鈴木委員

次期ビジョンは具体的な数値目標を設定していくとしているが、数値目標を決めるのは難しいし、それによってどのような効果が出るかも難しい。具体的な方向性が決まっていれば教えてほしい。

○事務局

具体的な方法は決まっていない。

今回、振り返りをする中で抽象的・感覚的な評価になってしまったため、加えて定量的な評価もあるとよいと考えた。

○鈴木委員

以前に東京文化ビジョンを策定した。大きな8つの戦略と10の行動計画で作っている。

それぞれにKPIという指標を設けた。10年後にこの姿になるためには、5年後には何を指すかというもの。そういう指標などがあるといい。

将来的に市川市にこういう姿になってほしいというのを見据えて、それに届くための近い目標を設ける。例えば若い人たちの文化への参加度が何年に何%になるなど。

大きな目指す姿に近づくための必要なステップをはかるための目標を作れたらよいのかと感じた。

○朽木委員

文化芸術の対象の範囲については、国の付帯決議にもかけられた。

文化芸術基本法の前段階である文化芸術振興基本法の段階では、伝統的な様式美を含むスポーツ類も入っている。例えば柔道、剣道、相撲がある。

市川市は相撲にかなり文化的な繋がりがあるまちである。例えば小島貞二氏は評論家で資料もたくさんある。境川浪右衛門が高谷の出身。高谷には、横綱当時の伝承やゆかりの地が残っている。そういったことも踏まえ、こぼれ落ちてしまいそうなものもぜひ含めて考えておけるとよい。

○事務局

文化芸術の対象範囲については、今いただいたご意見をもとに検討していく。

○小笠原委員

KPIは必須だが、自分自身の経験を踏まえると、文化芸術という分野で観客動員数などの数値目標を単に掲げるのは違うと思う。特に少子高齢化の流れの中で数だけ伸ばすというのは不可能なので、評価を数ではなく、質である必要がある。質的評価を測定する方法として、アンケートで来場者満足度を測るとよい。その際、KPIの評価に使える内容のアンケートを実施していくと、アンケートを取る意味がはっきりするのでそういう方法を検討してほしい。

4. その他

○朽木委員

総合計画審議会の委員もしているが、前回までの総合計画には明確に大学との連携が入っていたが、新しい総合計画では、目標として入れる段階ではなく、もっと発展した形になっている。

市役所だけでなくもっと多様なステークホルダーと一緒に進めていく。NPOや市民活動団体、多様な文化芸術団体と価値を共創していくことが必要になってくる。今までの共働から共創へ移ってきている。これが新しい総合計画における基本的なビジョンなので、ぜひ今回の文化振興ビジョンでも近隣の多様なステークホルダーとの連携をはかっていってほしい。

今までの文化芸術メンバーが減ってきているとの話もあったが、今までと違った形で地域活動をしている団体は増えてきている。

価値共創でこういった繋がりをもっていけるかを組み込んでもらえるとよいと思う。

例えば、大学がもっている資産、資源を活用する。鎌ヶ谷市と千葉商科大学が連携して、鎌ヶ谷の登録有形文化財文化資産を大学生が4K3Dによる記録保存をした。

いろんなステークホルダーとどう連携していくのかを含むと総合基本計画と整合性のとれた新しい計画になると思う。

（事務局からその他事項について）

本日のご意見を参考に、事務局で引き続き検討していく。